

高校 国語の学習

2 基礎編

テスト問題用紙

- ・先生から試験開始の合図があるまで、ページをひらかないこと。
- ・問題は、小説1問／随筆1問／評論1問／国語基礎力4問の計7問ある。
 - P 2～P 3…小説
 - P 4～P 5…随筆
 - P 6～P 7…評論
 - P 8…国語基礎力
- ・◎印の問いは、本書では問われなかったものである。
- ・解答はすべて、別紙の解答用紙に記入すること。



1 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

——客足が途絶えることのない近所のパン屋で、一度だけパン教室が開かれたことがある。……

参加者は女性ばかり十五、六人だった。パンを焼くのがまったく初めてなのは、驚いたことに私ひとりだったようだ。みんな、家でパンなんか焼くんだろうか？ いつ？ なんのために？ 聞いてみたい。聞いてみたい、と思いつながら、篩ふるいに取った小麦を延々とかきまわし続けた。こうやってフスマ*を取り除くのだそうだ。休みなく粉をかきまわすうちに掌てのひらは赤くなり、額にはうっすらと汗をかいていた。(A)顔を上げると、台の端で店の主人が黙々と小麦を篩ふるい続けている。無骨な求道者のようにも見えた。

想像していた優雅な教室とは違い、課される作業はひたすら地道で厳しかった。しかも、主人がいちばん熱心なのだ。「Ⅰ」を休めるわけにもいかなかった。いくつかの班に分かれてけっこうな重労働に励んでいたせいで、別のグループの人とは言葉を交わす機会もないほどだった。だから、実習中の陽子ちゃんの様子を私は見えていない。見ておきたかったな、と思う。柔らかな髪を白い頭巾に包んで一心「Ⅱ」に粉をこねていたんだろう。

教室の終わりに、焼けたパンを試食してひとりずつ感想を述べた。私はへとへとだった。パンはたしかにおいしかった。イベントとしては成功かもしれない。しかし、あの工程を思うととてももう一度自分で焼く気にはなれなかった。

楽しかったです、おいしかったです、お店のパンが自分でも焼けるなんて感動しました——参加者たちが順々につるつるした感想を述べていき、(B)私は戸惑った。楽しいというなら、のんびり映画でも観みているほうが楽しい。おいしかったけれど、窯から出したばかりで、しかも鼻ひな目が入って三割増にはなっている。だいたい、手取り「Ⅲ」取り教えられるんとか焼き上がったのだ。余裕のある感想など(C)出てこなかった。

「私は自分では決して焼かないことにしました。この店でずっと買い続けます。」

凜りんとした声でそう宣言した人がいた。(D)同じ気持ちだったから、私はうつむいていた目を上げて発言者の顔を見た。髪の毛長い、かわいい女の子だ。それが陽子ちゃんだった。

(宮下奈都『速くの声に耳を澄ませて』)

*フスマ：小麦粉にまじる皮の屑くず。

◎問1 () A、Dに入ることをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。(同じことは二度使わない。)

ア ふと イ まったく ウ いよいよ エ まるで

問2 「Ⅰ・Ⅲに入ることばの組み合わせとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア Ⅰ…手 Ⅲ…足 イ Ⅰ…腕 Ⅲ…手 ウ Ⅰ…頭 Ⅲ…指

◎問3 「Ⅰ・Ⅱに入る漢字二字を次から選び、記号で答えよ。

ア 同体 イ 一体 ウ 不亂

問4 —線部①の説明として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 呆然ぼんぜんとしていた

イ 落ち着かなかった

ウ 疲れきっていた

問5 —線部②についての感想が、端的に書かれている一文をここより前の文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

問6 —線部③について、「私」も「客足が途絶えることのない」パン屋だけのことはある、と実感したことがわかる一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

問7 —線部④について、参加者たちの感想を「私」はどう感じているか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア あたりさわりのないもの

イ その場にふさわしくもないもの

ウ 型破りなもの

◎問8 「私」が「店の主人」に感心したことが端的に表現されている一文を文中から抜き出し、最初の五字を答えよ。

2

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

そのときになってみなければ、わからない。そういうことは、たくさんある。

ガンの患者さんに、あなたはガンですと言うかどうか。言われる当人だって、言われてみるまでは、言われた後の気持ちはわかるまい。ガツクリするか、せいっぱい生きようと思うか。それが（A）わかるわけではない。ガンの告知の是非は、^①そう思えば、簡単には決められまい。

いまの時代ほど、世間が「Ⅰ」時代はないであろう。新聞は少なくとも自分で読まなければならないが、テレビだったら、スイッチを入れておきさえすればニュースが勝手に伝わってくる。ご丁寧に、本当らしい映像まで伝えられる。テレビの画面上でしか知らないものを、現実を知ったと「Ⅱ」する。これを疑似現実と呼ぶ人があることは、ご存じのとおり。

しかし、「生きている」というのは、「やってみなけりゃわからない」ことを意味する。それはじつは、だれでも知っていることであらう。はじめから答えがわかっていたのでは、面白くもおかしくもない。

（B）、やってみるまではわからないこと、それを（C）行うには勇気が要る。^②この徳目が、教育から消えて何年になるであらうか。

最近亡くなられた、栄光学園のグスタフ・フォス師は、私の中学・高校時代の校長先生である。先生は毎月曜の朝、全校生徒の前で訓示をされる習慣だった。（D）上手とは言えぬ日本語で、若者には苦痛とも思われる長話をされたから、同級生の某氏などは、^③脳貧血を起こして訓示中にバツリ倒れるのが常だった。ただこの訓示の中でいまでも印象に残ることがある。それは「勇気をもつて」という口癖である。

こどもにとっては、なにごとであれ、はじめての経験である。すべてのこどもは、その「はじめて」を行う勇気を持つ。だからこどもは生き生きとしている。その勇気が失われるにつれ、人は一見生きながら、^④しだいに「死んで」いくのである。死体だけが死人ではない。

（養老孟司『脳の冒険』）

◎問1 () A、Dに入ることをそれぞれ次から選び、記号で答えよ。(同じことは二度使わない。)

ア けっして イ あらかじめ ウ ただし エ あえて

◎問2 ——線部①の意味として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 必要性 イ よしあし ウ 方法

問3 「I」に入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア わかる イ おもしろい ウ わからない

◎問4 「I」IIに入ることばとして、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 確信 イ 錯覚 ウ 透視

問5 ——線部②が指す事柄を文中から二字で抜き出して答えよ。

問6 ——線部③はどんなことを裏付けるための表現か。文中から八字で抜き出して答えよ。

問7 ——線部④について、筆者はどんな人を「死人」と述べているか。文中のことばを使って、一〇字以内で答えよ。

問8 筆者が右の文章で伝えようとしたのは、どのようなことか。最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

ア 勇気を持つ大切さが現代の教育では重視されていないこと。

イ やってみるまでわからないことを行う勇氣を持つこと。

ウ メディアの情報だけで知った気になるのは危険であること。

3

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

幸福とは、どんな状態かと言うと、自分はこれをやるために生まれてきたんだ、と思えることです。もし思えたら、それはとても充実している状態です。それは、「Ⅰ」です。それは自分が、持って生まれた、隠されていたものを、いま發揮しているぞという内側からの感覚と、それを「ああ、すばらしいですね。」と評価してくれる、社会の側からの「Ⅱ」な評価とが、結びついた状態だと思います。別に世界一や日本一になる必要は、全然ありません。(ア) 充実しているなあと思えることが、いちばんです。

昔、日本にはこういう、「Ⅲ」がよくいました。うどんをつくる。^①手を抜かないで、ちゃんとしたうどんをつくる。小さなお店かもしれないが、うどんを出して、お客さんがおいしいと食べる。で、^②うどん屋としてやっていける。これがすべてで、そこに、妥協の余地のない自分の世界がある。なんていうひとが、たくさんいたのです。

いまはこういう仕事を見つけない時代なただけれど、でも見つかるはずですよ。(イ) 努力とは、コストを払うことです。努力しても空ぶりになるかもしれないですね。空ぶりになるって、「Ⅳ」ですね。

リスクを取らないと、努力はできないんです。努力は報われると決まっていない。で、そのリスクは、社会の側で埋め合わせてくれないから、自分で負わなければいけない。ダメだったらめげますけれど。ダメだった理由があるわけで、それをしっかり踏まえるなら、また次の「Ⅴ」があると思います。(ウ)

若いひとの場合は、二回や三回、挫折しても大丈夫ですから、そういうチャレンジを引き受けるほうがいい。チャレンジするのなら、全力を出さないと、チャレンジにならないです。本気でやってはじめて、ダメなときに挫折ができます。

^③挫折も大事です。自分の適性や、社会の現実を思い知ることができるから。そうやって、行けるところまで行かないと、自分の隠された力は出てこないと思います。

(橋爪大三郎『面白くて眠れなくなる社会学』)

◎問1 「Ⅰ」に入る文中のことばを二字で答えよ。

◎問2 「Ⅰ」Ⅱに入ることばを自分で考えて、漢字二字で答えよ。

◎問3 次の一文は、文中の(ア)～(ウ)のどこに入るか。記号で答えよ。
 ・それには工夫と努力が必要です。

問4 「Ⅰ」Ⅲに入る内容として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 職人さんみたいなタイプの人
- イ 器用な万能選手みたいな人
- ウ 芸術家みたいなタイプの人

◎問5 ——線部①について、「手を抜く」の意味を次から選び、記号で答えよ。

- ア 携わっていたことから、身を引く。
- イ 手数をばぶき、いい加減にすます。
- ウ すべきことを、他人任せにする。

問6 ——線部②のような状況になるのは、どういう現象が生じた場合のことか。自分で考えて答えよ。

問7 「Ⅰ」Ⅳに入ることばを文中から抜き出して答えよ。

問8 「Ⅰ」Ⅴに入ることばを文中から抜き出して答えよ。

問9 ——線部③について、筆者がその述べるのはなぜか。理由として、適当でないものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 失敗することまでこれまでのあり方を反省し、視野がひろがって他人の痛みを思いやることができるようになるから。
- イ 限界まで力を出し尽くすことによって、隠れていた自分の能力に気づくことができるようになるから。
- ウ 失敗した経験を通して、自分が何に向いていて、何に向いていないのかを知ることができるようになるから。

問10 右の文章の題名として、最も適当なものを次から選び、記号で答えよ。

- ア 幸福とはなにか
- イ 幸福と努力
- ウ 幸福と不幸と

4

次の各問いに答えよ。

A 次の作品の作者名をそれぞれ下から選び、記号で答えよ。

- ① 罪と罰
- ② 老人と海
- ③ 風と共に去りぬ
- ④ 狭き門
- ⑤ 人形の家

- ア ヘミングウェイ
- イ ドストエフスキー
- ウ イブセン
- エ A・ジツド
- オ M・ミツチエル

B 次の慣用句の意味をア～オから選び、記号で答えよ。また、ほぼ同意の慣用句をa～eから選び、それぞれ記号で答えよ。

- ① お節介せつがいを焼く
- ② 元もとも子こもない
- ③ 烙印らくいんを押される
- ④ 足下あしもとを見る
- ⑤ 尻しりが青い

- ア 何もかもすっかり失う。
- イ 年が若くて未熟だ。
- ウ 決定的な汚名を受ける。
- エ 相手の弱点を見て強く出る。
- オ 他人のことに不必要に立ち入る。

- a 弱みにつけこむ
- b くちばしを入れる
- c くちばしが黄色い
- d レッテルを貼られる
- e 水泡すいぽうに帰す

C 次のことわざとほぼ同意のものをそれぞれ下から選び、記号で答えよ。

- ① 猫ねこに小判
- ② 光陰こういん矢のごとし
- ③ 糠ぬかに釘くぎ
- ④ 泣なきつ面つらに蜂
- ⑤ 弘法こうぼうにも筆の誤り

- ア 歳月人を待たず
- イ 上手の手から水がもれる
- ウ 豚ぶたに真珠
- エ 暖簾のれんに腕押し
- オ 弱り目にたたり目

D 次の——線部の漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直せ。

- ① 隆盛
- ② 動揺
- ③ 掃除
- ④ 駐車
- ⑤ 風邪
- ⑥ 観衆くわんしゆをミリヨウする演技。
- ⑦ 運転メンキヨうんてんめんきよを取得する。
- ⑧ 前途ぜんずをウリヨする。
- ⑨ ユカイゆかいな時間。
- ⑩ 桜さくらのナエギなえぎを植える。